

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本整形外科学会雑誌 (2006.06) 80巻6号:S656.

悪性腫瘍を扱う整形外科医のための緩和ケア 骨・軟部腫瘍学術集会からの提言 骨・軟部腫瘍における緩和ケア アンケート調査結果をもとに

阿部泰之, 松野丈夫, 月山淑

## II-2-S5-2

### 骨・軟部腫瘍における緩和ケア —アンケート調査結果をもとに—

阿部 泰之<sup>1,2</sup> 松野 丈夫<sup>1</sup> 月山 淑<sup>3</sup>

癌をはじめとする悪性腫瘍に対する緩和ケアの関わりは近年その必要性が認識され、各施設で緩和ケア病棟・緩和ケアチームとして活動が盛んになっている。骨・軟部腫瘍領域でも原発性悪性腫瘍、または転移性の骨腫瘍を扱うことから、緩和ケアのニーズはあると考えられる。しかしその実態は不明である。今回骨・軟部腫瘍領域における緩和ケアの現状・ニーズの把握を目的とし、全国の施設にアンケート調査を行ったのでその結果を報告する。アンケートは2種類作成し、一方を骨・軟部腫瘍を扱う整形外科施設に、もう一方をホスピス・緩和ケア病棟施設に送付した。回収率はそれぞれ58%、31%であった。緩和ケアに患者を紹介したことがある整形外科施設は82%にのぼったのに対し、骨・軟部腫瘍患者を受け入れたことのある緩和ケア施設は46%であった。原発性の悪性骨・軟部腫瘍進行期患者で対処を要した項目では、整形外科側が順に呼吸苦、痛みを挙げているのに対し、緩和ケア側は痛み、家族への対処が問題とし、また同項目の転移性骨腫瘍に対する質問でも、整形外科側が痛み、脊髄麻痺を挙げたのに対し、緩和ケア側は痛み、スピリチュアルペイン、倦怠感が問題としていた。双方の患者の症状に対する認識の違いが浮かび上がった。一方で整形外科医のほとんどが緩和ケアの必要性を感じ、疼痛コントロールや精神的なサポートを望んでおり、自由回答からは若年者への対応や、治療から非治療期へのギアチェンジに対する悩みがあることがわかった。反対に緩和ケア側からも緩和ケアへの早めの相談を望んだり、疼痛治療への認識を高めて欲しいという要望とともに、脊椎転移等に対しては整形外科への協力を求める声が多くあった。これらのアンケート調査結果をもとに現状・ニーズを分析し、骨・軟部腫瘍における緩和ケア、もしくは整形外科医にとっての緩和ケアとは何か、今後の方向性を考察する。

<sup>1</sup>旭川医大整形 <sup>2</sup>旭川医大緩和ケアチーム <sup>3</sup>和歌山医大集学的治療・緩和ケア部